

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000025		
法人名	医療法人中山会 グループホーム冬桜		
事業所名	グループホーム冬桜 1F		
所在地	北海道江別市大麻東31番地5		
自己評価作成日	令和2年10月25日	評価結果市町村受理日	令和2年12月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191000025-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた住宅地に立地しております。近隣には銀座商店街があり各種医院、飲食店、小学校が隣接している地域になります。例年であれば、時期に応じて春は庭での桜の下コンサート、夏にはお祭り、秋には買い物、冬にはクリスマス会を主として行い、法人のパウロ病院では「歌合戦」「夏祭り」「作品展」「クリスマス会」が開催されるので同法人のグループホームや施設、パウロ病院の入院患者さんと共に参加。ご近所の交流として職員と一緒に入居者も買い物でトライアルやツルハ、宝来軒に買い物をしています。又、江別市内をタスキリレーするオレンジRUNにも協賛及び入居者と参加しています。小学校が隣接している事から、秋には小学校に招かれ楽器演奏やよさこいを見学し、春が近くなる頃にはホームに招いて見学や直接入居者への質問等をして交流をしていましたが、令和2年2月頃より徐々に拡大しているコロナウイルスの蔓延防止の為、外出行事や庭でのイベント、講師やボランティアでの施設内に入って頂くのはご遠慮して頂き、イベントや外出に関しても中止を余儀なくしております。毎月行っていた体操教室も外部からの講師を招いている点から、中止しております。1Fと2Fの交流も少なくし、家族の面会も目処が立っていないです。現在、コロナ対策として色々と準備し面会を摸索している所です。そんなコロナ対策の中でも、季節を感じて頂けるようにリビングの壁にハロウィンや桜などの飾りを毎月変更し、生活リハビリとしての洗濯干しや洗濯たたみ、テーブル拭き等のできる事を継続して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム冬桜」は、バス停留所から数分の静かな住宅地に立地している2ユニットの事業所である。近くには商店街や各医療機関、小学校などもあり利便性が高く、自然環境にも恵まれている。開設後13年が経過しており、管理者と職員は近隣の社会資源を十分に活用しながら利用者が買い物や外食を楽しみ、日々地域住民と触れ合う暮らしを支えている。小学生との交流や地域の催しに参加する一方、春には住民を招待し事業所の庭で桜の下でのコンサートを楽しみ、また夏にはお祭りを相互に交流する機会を継続して行っている。今年は新型コロナウイルス感染防止から、運営推進会議は書面会議で行い、また避難訓練では火災、水害、地震などマニュアルに沿って安全面を確認している。例年はボランティアの来訪、地域の専門家による体操・音楽療法、また講師による作品作りもあるが、今年は事業所内での楽しみごとを企画し場面作りをしている。食事でオードブルやお寿司の出前で好きなものを選ぶように工夫している。職員は母体病院での研修や「江別あおいの会」の研修など、外部の研修を学ぶ機会も多いが、今年は内部研修の他、毎月全利用者の支援内容を評価し、ケアの質向上に向けた取り組みを積極的に行っている。日々質の高いサービスを提供し、細やかな対応は家族にも喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営母体と理念を共有し「大切な命を元気で楽しい命に」掲げている。また、行動方針には5項目を掲げており、月2回のカンファレンスで全員で読み上げて共有し、基本方針に沿った支援や実践に向けて取り組んでいる。	法人共通の理念と行動方針をパンフレットにも記載して周知し、地域での楽しい暮らしを支える内容となっている。理念などに地域の文言は入っていないが、行事を通して地域住民との関わりを意識しながら実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、例年であれば桜の下コンサート、夏祭り等の案内を回覧している(コロナウイルス蔓延防止の為R2年度は中止している)、商店街には買い物や軽食やおやつを買ったりとし交流している。	事業所行事に住民を招待している。夏祭りのほか、桜の下コンサートでは地域グループのバンド演奏を楽しんでいる。今年は感染症対策のため、外部者との関わりが制限される中で、内部でお祭りを行うなどの楽しみごとを工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	普段は、地域の方々が来訪しやすい施設を目指している。体操教室(音楽療法・運動療法)、軽音楽演奏、傾聴ボランティア、ひよっこ踊り、大麻東小学校等との交流を行い、ありのままのホームを見て頂く事で認知症の方々を受け入れて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も通常であれば、2か月に1度の割合で行っていたが、コロナウイルス蔓延防止の為、一時休止、書面にて入居者家族や民生員、包括にて周知しています。	会議を定期的に開催し、行事、感染症、避難訓練のテーマで意見を交換し、資料をもとにストレスチェックのミニ勉強会も行っている。今年は感染症対策から書面会議とし、事業所の取り組み内容を報告書にして推進委員に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	江別市と常に連絡を行っている。特に令和2年度はコロナウイルス蔓延防止の為に運営推進会議等の進め方等相談し、指示を仰いでいる。	今年は特に電話やメールで各担当者に相談し、運営推進会議開催の方法や外部評価実施など感染症対策における対応を確認している。生活保護担当者や後見人とは、関係がある利用者のことで必要に応じて連絡を密にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム及び法人マニュアルを遵守している。身体的拘束適正化委員会を開催し、年間で4回以上は必ず開催している。又、読み合わせのマニュアルを作成し、2から3項目を毎日職員間で読み合わせし、意識を向上している。	事業所内に身体的拘束適正化委員会を設置し、定期的に会議を行い全利用者の状態を確認している。内部研修でマニュアルにある禁止となる具体的な行為の内容、また言葉遣いや対応を学び、常に意識して拘束のないケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待防止についての外部研修(R1.8.20)、パウロ病院(母体)の研修(R1.6.12)等に参加、研修内容を(R1.9.19)カンファレンス時に報告し、情報の共有を図っている。R2年度の研修に関してはコロナウイルス蔓延防止の為自粛している。		

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、成年後見制度を利用している方は居ない、今後に向けて江別市で行う(R2.10.20)市民後見人養成講座の事前説明会があるので参加し(1F職員)、今後に繋げて行く。以前の入居者で弁護士による後見人と生活保護者の後見人とは接点がありましたので、できる事やできない事のおおまかな所は経験している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間を取り重要事項の説明を行っている。又、事業所としてできる事、できない事を明確に説明している。医療連帯体制等を説明し、重度化された時の対応についても同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に暮らしのシートを見て頂き、意見等を個人ノートに記載、情報の共有を図り改善に努めている。重要事項説明書に法人の窓口も設け(個人名)意見を述べやすい環境に努めている。	来訪時に意見を聞き、ケアや介護計画に反映している。今年は感染対策のため電話や来訪時には玄関先で話し合い、またタブレットなどの使用で本人との会話も工夫している。今後、個別に本人の暮らしの様子をお便りで伝えることも考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、個人面談の場を設け個々の目標を掲げて頂く事で意見や提案を述べやすい環境を提供し、現場での働く環境の改善等に活かしている。	カンファレンスで意見や提案を聞き、感染防止から事務所などのレイアウトを変更している。管理者は感染症への不安や精神的なストレス緩和に対応し、ケアで対応が難しいと感じる職員とは個別に話し合い、働きやすい環境に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップシステムによる昇給制度がある、自己評価や面談により個々の勤怠状況を把握している。これにより各自が自身の目標に取り組み、研修やカンファレンス等を通じて入居者個々のケアをよりよい物にする事で意識向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、法人の研修を通し、職員一人ひとりのケアと環境を整えている。法人及びホーム内、外部研修をに参加する機会をつくり、各研修の報告会も行っている(令和2年度は、今現在ほぼ研修を行っていない)。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年であれば、江別市内の管理者の会があり交流し、勉強会等も開催していたが、コロナウイルス蔓延防止の為に令和2年度は行われていない。令和元年度は、研修及び管理者の会に参加し情報の共有を行ってた、現在は電話やメール等で情報交換を行っている。		

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族等から本人の情報を頂けるように書面や電話等で出来るだけ情報を頂き、本人が利用開始しても安心できるように対応し、入居後はできるかぎり本人とお話をして困っている事や不安を受け止めるように対応している。事前に面談等をしていたが、コロナウイルス蔓延防止の為に面談の回数は極力控えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から連絡や来訪があった場合には、できる限り時間を取りお話を聞く環境を作り、話しやすい環境の提供に勤めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の相談内容、ご本人の状態を確認し、色々な環境を踏まえた上で適切な介護サービス等が受けられるように支援している。時には、他サービスを進める事もある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯干し、洗濯たたみ、テーブル拭き等できる範囲で声かけで行ってくれたり、一緒に行ったりしている。又、普段の会話から生活の知恵等の話を頂き、対等の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事に家族参加できる物を2～3か月に1度の割合で行い(コロナウイルス蔓延する迄)、本人・家族・職員が一緒に楽しむ事により信頼関係をより深くできるように努めていたが、コロナウイルス蔓延防止の為に今は行事はほぼ中止し、家族の面談も状況に応じている。今後は、タブレットを使ったり、短い時間の面談の為に準備を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までは、ホームのへの来訪は自由となっており、家族はもちろん知人との交流を継続していたが、コロナウイルス蔓延防止の為に現在は面会を制限しています。今後は、設備を整えながらテレビ電話等による面談も考えている。	昨年は知人や宗教関係者の来訪も多くあったが、感染症対策のため電話や手紙で交流を継続している。外出制限の中で事業所内で趣味の編み物や作品作りが楽しめるように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	申し送りや記録、カンファレンス等から入居者同士の関係を把握し、孤独感を感じないように職員で声かけや他入居者さんとの交流を支えています。		

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的はこちらから連絡する事は無いが、連絡があった時には丁寧に対応し、パウロ病院の入院している方に関しては、時折面会をしている(現在は、コロナウイルス蔓延防止の為、面会禁止中)。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から、その人の思いや願を把握し、家族も踏まえて普段の暮らしに反映している。意思表示が難しい方は、家族の意向を踏まえながら本人の表情等から、カンファレンス等で支援の方向を検討している。	会話や日々の様子から個別の思いを把握し、できる場面づくりをしている。家族の記入でセンター方式の(B-3)シートから趣味、嗜好などの情報を得ているが、見直し時に活かされていない面もみられる。	計画の見直し時に、センター方式(B-3)シートに本人の趣味、嗜好、暮らしの習慣など変化も具体的に追記し、現在の思いを把握して介護計画書1表に記載できるような工夫に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、家族に記載して頂いています。他、本人や家族に直接習慣等を伺っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況や状態については、個人記録を主として1日2回の申し送り周知し、排便・入浴・体重・バイタルに関しては確認しやすいように別にチェックシートに記載して、共有を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人記録に記号を記載しケアプランと連動している。毎回のカンファレンスで日々のモニタリングを行い、三ヶ月に一度の割合で書面に起こしている。家族とは、来訪時に状況報告と意見を頂き、年に一度の割合で担当者会議を開催し、本人・家族から意見や要望を求めている。	全利用者の支援内容を毎月評価し、3か月ごとに職員の意見を収集してモニタリング総括表を作成している。担当者会議に年に1度は本人・家族も参加して意向を話し合う場を設けている。日々の記録(暮らしのシート)に変化なども記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態や状況及び、言動も本人の言葉を使い記録し、介護者の言動に関しても記録、一日二回の申し送りで情報を共有、カンファレンス時にはモニタリングを行い、記録にすることで職員間での情報を共有、ケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主に、突発的な発熱時等家族に連絡を行い対応して頂くが、状況及び状態によってホームの人員で対応、家族が遠方の方や車椅子で移動が必要としている方には、外部サービスを利用した受診も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通常であれば、月1回の体操教室、唄や踊りのボランティア、小学校との交流をし楽しく暮らせるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に入居者と家族に意向を確認し対応している。家族での受診時には状況の説明書等も使用している。受診後は、結果を受診記録に記載し情報の共有を図っている。	月1回母体病院のほか、地域の皮膚科、精神科、歯科医院の訪問診療がある。かかりつけ医を受診する際には健康情報をコピーして家族に渡している。受診の負担軽減を家族と話し合い、通院送迎に介護タクシーを使用することもある。	

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護にて来訪時に皮膚の状態やむくみ等の相談をしている。状態変化に関しては、電話で連絡を行い指示を仰いでいる。パウロ病院の訪問診療時に訪問看護師が同行し、馴染みやすぐ安心できる体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの生活状況の報告を医療機関に合わせて書面や口頭で行っている。入院中には、定期的に訪問し、退院に向けては情報を頂き、話し合いを行いながらホームの体制を整えて退院して頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明時や施設見学時に重度化の説明を行っている。終末期は行っていないので、要介護4又は要介護5になってからは折を見て家族に状況を説明し、ホームの次の事を考えて頂き、本人と家族が納得できるように支援を行っている。	利用契約時に重度化や終末期の事業所対応を説明し同意を得ている。状態変化から早い段階で終末期の方針を話し合い、入院治療、また特別養護施設入所の申し込み、自宅での看取りも含めて家族の意向に沿い安心できるように対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変、事故発生時には連絡網を活用し、対応している。緊急連絡網を定期的にテストしている。AEDの設置もしており、緊急時の対応も通報装置の所に見やすく分かりやすく設置(表示)している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、消防指導の下で行っている。コロナウイルス蔓延防止の為に今年度は自主訓練をしました。又、災害時の備蓄品を確保している。	昨年は消防署員や住民協力の下で火災を想定した訓練を実施している。今年は感染症対策のため事業所内で火災以外の地震や水害時を想定し、マニュアルに沿って対応、避難誘導を確認している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で情報共有を行う場合は、部屋番後を活用し(部屋には部屋番号の表示はない)入居者及び外部の方にも配慮をしている。個々の人格を把握し、個別に応じた声かけ対応を行っている。	利用者の名前は「さん」付けで呼んでいる。個人に関わる書類は目につかない場所に保管しプライバシーに配慮している。入職時に法人母体病院にて接遇研修を行っていたが、現在は感染症対策のため施設内にて学びの機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の衣類、おやつ、塗り絵等のアクティビティでも選択できるようにし、できる方には自身で選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間は、本人のペースと体調に合わせて行っている。食事やおやつは薬の関係もあるので、同じ時間帯で提供している。トイレも個々のタイミングで声かけしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる方には衣服を自ら選んで頂き、季節や気温の話しをし時期にあった服を選んで頂いている。		

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現時点では、調理を一緒に行うのは困難だが、食事前後のテーブル拭きやお盆拭きを声かけで行っている。彩を気にしながら細かくペーストし、お皿に盛る時も見た目からも食事を楽めるように工夫している。	献立作成、調理は職員が行い、利用者は食事の下ごしらえやテーブル拭きに参加している。利用者も一緒に食材調達に出かけていたが、感染症の流行で現在は控えている。イベント時は希望のメニューのほか、オードブルやお寿司の出前を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一品でも多く摂ってくれるように、独自にメニューを作り、三食で食材の種類が多く摂れるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には仕上げ磨きを行い、声かけで行える方にはケア中見守り声かけ、介助が必要な方でも出来る所は行って頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者全員の排泄タイミングを把握し、自身で出来る方にはある程度時間があいたら声かけ、一部介助の方にも声かけ確認してからトイレに誘導している。車椅子の使用している方も、手すりに捕まってもらったり、パットを一部押さえたり、ズボンを上げてもらう等、個々の能力に応じて、出来る事はして貰っている。	生活の区切りの中、自然な流れで声かけトイレ誘導をしている。利用者の約3分の1が一人で排泄することができる。日中、夜間共にオムツは使わず、状態に応じてリハビリパンツやパッドを使用している。利用者自身が出来る事を最大限活かしながら排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は、チェック表で確認し排便感覚等に注意している。水分の確保を重視し、食材を多く使って食物繊維等にも気を付けている。医師にも便秘の報告し、個々に薬の調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽めるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別入浴で対応し、プライバシーにも留意している。会話したり、浴室・脱衣場の温度にも留意し、快適に過ごせるようにし、次の入浴に繋がるようにしている。入浴順等も確認しながら、快適に入浴して頂いている。	週に2回以上入浴をしている。入浴を嫌がる利用者には直接的に「お風呂」という言葉を使わず声かけし、スムーズに誘うよう工夫している。入浴剤を4種類から選ぶことができ、入浴中は歌や職員との会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態を把握し、日々の申し送りからその時々状況も共有している。入床時間も一人ひとりの状況や体調に応じて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在使用している飲み薬や塗り薬をファイルし、いつでも見られるように管理している。服薬介助前後の確認は、2人の目が関わるようにし、空袋も確認している。血圧や血糖の薬が変わった際には「今日の申し送りと予定」の書面に記載し、職員全員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在は、コロナウイルス蔓延防止の為に面会および外出を制限しているが、個々のできる事としてきた事(スケルトン、編み物、唄等)を繋げていけるように支援しています。		

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス蔓延防止の為に、外出は行っていないが、それまでは家族に協力頂き、個別に外出を行い、ホーム又はフロア単位での外出や買い物等を行っている。又、外出時には家族にも声をかけ日程が合う家族は参加している。	以前はお花見、母体病院の夏祭りや作品展への参加、買い物ツアーやお正月のお参りなど、2～3か月に1回の頻度で外出をしていた。現在は感染症対策のため外出は控え、ベランダでお茶を飲みながら外気浴を行うなど、施設内で楽しめるような支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事の際に、個々の希望に応じて本人が自身で選び、清算時には同行し一緒に支払いをする等できる事をできる限りで支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はコードレスを使用しているので、居室での会話も可能にしています。電話連絡は家族の都合もあるので、ホームにいつでも連絡して頂けるように話し、1名の入居者はケアプランに電話や手紙のやり取りを組み込み、家族が順番で対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、四季やひな祭り、クリスマス等の飾りを毎月変更している。食事の際は音楽、照明は暖色及び間接照明を使用、窓からの景色は奥行きがあり花や桜の木があり会話やベランダに出るきっかけとなっている。花の手入れや庭の掃除、照明の強弱を行い居心地の良い空間づくりを常に行っている。	職員と利用者が一緒に作成した塗り絵など、四季を感じる創作物が飾られている。乾燥しないよう洗濯物を干したり、換気もこまめに行うなど衛生面にも配慮をしている。食事の際に音楽が流れるほか、照明の光も温かみがあり、居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間を二か所設置し、テーブルや椅子、ソファを設置。共に自由に利用できるもので、ひとりの時間を持ったりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はスペースに限りはあるが、馴染みの物を持ち込んだりしている(タンス等)。又、家族の写真や好みの置きものや飾りを行っている。	ソファやタンスなど利用者が使い慣れた家具を持ち込んでいる。塗り絵や編み物などの創作物のほか、家族の写真や化粧品、テレビ、ラジオなど好みのものも置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできる事を把握し都度声かけで行って貰っている(洗濯たたみ、洗濯干し、食器の片付け、食器やお盆拭き等)。トイレに表示を出し解かりやすくし、廊下・トイレに手すりを設置、段差を無くしバリアフリーをしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000025		
法人名	医療法人中山会 グループホーム冬桜		
事業所名	グループホーム冬桜 2F		
所在地	北海道江別市大麻東31番地5		
自己評価作成日	令和2年11月4日	評価結果市町村受理日	令和2年12月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191000025-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた住宅地に立地しております。近隣には銀座商店街があり各種医院、飲食店、小学校が隣接している地域になります。例年であれば、時期に応じて春は庭での桜の下コンサート、夏にはお祭り、秋には買い物、冬にはクリスマス会を主として行い、法人のパウロ病院では「歌合戦」「夏祭り」「作品展」「クリスマス会」が開催されるので同法人のグループホームや施設、パウロ病院の入院患者さんと共に参加。ご近所の交流として職員と一緒に入居者も買い物でトライアルやツルハ、宝来軒に買い物をしています。又、江別市内をタスキリレーするオレンジRUNにも協賛及び入居者と参加しています。小学校が隣接している事から、秋には小学校に招かれ楽器演奏やよさこいを見学し、春が近くなる頃にはホームに招いて見学や直接入居者への質問等をして交流をしていましたが、令和2年2月頃より徐々に拡大しているコロナウイルスの蔓延防止の為、外出行事や庭でのイベント、講師やボランティアでの施設内に入って頂くのはご遠慮して頂き、イベントや外出に関しても中止を余儀なくしております。毎月行っていた体操教室も外部からの講師を招いている点から、中止しております。1Fと2Fの交流も少なくし、家族の面会も目処が立っていないです。現在、コロナ対策として色々準備し面会を模索している所です。そんなコロナ対策の中でも、季節を感じて頂けるようにリビングの壁にハロウィンや桜などの飾りを毎月変更し、生活リハビリとしての洗濯干しや洗濯たため、テーブル拭き等のできる事を継続して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営母体の理念として「大切な命を元気で楽しい命に」を掲げている。また、行動方針には5項目を掲げており、月2回のカンファレンススレンスの際に全員で読み上げて共有を図り、基本方針に沿った支援や実践に向け取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、桜の下コンサート、夏祭り等の案内と、年4回のホームの広報を回覧している。昨年はは商店街に買い物に出かけたり小学校との交流をしていたがコロナ禍で今年は出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が来訪しやすい施設を目指している。現在はコロナ禍の影響でフラワーアレンジメント以外実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催していたがコロナ禍の為3月以降は行っていない。運営状況を文書で送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は窓口に赴いた折や来所時に状況説明し適時助言や指導を求めたり広報誌を届けている。生保の入居者さんの受診時に連絡をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人共通のマニュアルを整備し、読み合わせ用のマニュアルを2～3項目ずつ毎日当日の職員で読み合わせをし、意識づけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、身体抑制、不適切行為等対応マニュアルの読み合わせを行って理解している。玄関は安全面に配慮し施錠している。入浴時、排泄時、更衣時には身体の観察をし各入居者の状態についても報告し情報の共有を行っている。		

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業は、書面などを使い周知している。成年後見制度については、入居者で利用している方がおり、勉強の機会となっているが今年度は訪問なく郵送でのやり取りとなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間を取り重要事項の説明を行っている。また、事業所として出来る事できないことを明確に説明している。医療連携体制等を説明し重症化された時の対応についても同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時にくらしのシートを見ながら入居者の様子を伝えたり、意見や要望を聞き取り個人ノートに記載している。重要事項説明書に法人の窓口になる者の個人名を記載し意見を述べやすい環境に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、各職員の個人面談時に目標を聞き職員の技術向上にも取り組んでいる。個人面談、カンファレンスで職員に意見や提案を聞く場を設け、可能な限り反映させるように取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップシステムによる昇給体制があり、自己評価、面談等により、個々の意向の確認を行っている。またカンファレンス時の話し合いにより働きやすい環境づくりに努めている。希望休や有給休暇を組み入れている。働き方改革により有給休暇が取得しやすくなった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で法人のが中止あるいは延期になっている。外部研修は自粛で参加出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は毎月1回市内同業者と交流し情報交換の機会を設けていた。グループホーム間のスタッフ間でも相互訪問の機会や研修も開かれていたが現在はメール交換しかできていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	随時、ホームの見学、ご家族との面談、ご本人を交えての面談を何度か行い、状況を把握できるように努めている。ご本人の思いを受け止め安心できるように真摯に対応して、関係づくりに努めている。またホーム内での様子等、ご家族に報告または記録を見て頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のお話を傾聴し、状況に応じて事務室等を利用し話やすい環境にも気を付けている。その中からニーズを把握し可能な限り対応することで信頼関係の構築に努めている。現在では郵送での文書のやり取りと電話連絡で関係保持に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容により状況の改善に向けた取り組みを行っている。場合により他のサービスの利用を勧めることがある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯たたみ、調理等出来る範囲で手伝って頂き、その中で会話をしたり、学んだり、支えてゆく関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2～3ヶ月に1度の割合で家族が参加できる行事を開催していたがコロナ禍でできていない。通院時は状況に応じて家族だけでなく職員も同行したり、家族が困難な場合は職員で対応し共に支えあう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本、ホームへの来訪は自由となっているので知人、友人の来訪も家族に確認の上対応していた。今年度は2月頃から自粛に入っている。電話での連絡はしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	申し送りや記録などから、入居者同士の関係を把握し、孤立することが無いように、職員が状況を見ながら中に入り支援をするように努めている。入居者さん同士の談話等和やかに楽しまれている姿も見られる。		

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人のパウロ病院へ入院された方へは、職員が時折面会に伺っていたがコロナ禍のため現在は面会でできない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのニーズにあった対応をし意思疎通がうまくできない方については、言語、表情、行動から把握しカンファレンス時に検討している。カンファレンスの話し合いで今後の対応について答えが出ない時は、都度本人や家族と話して次回に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、入居者情報シートを家族に記入して頂いているが家族がなく後見人なので詳しい情報が分からない方もおられる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個人記録、申し送り、カンファレンス等で把握している。家族との外出、外泊の際のご本人の状況を把握できるように外出届を作っている。(水分、排泄、過ごし方等)		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人記録に記号を記載し、ケアプランとつながりを意識している。毎月2回のモニタリングの実施、3ヶ月毎に短期目標の見直しをしている。長期目標の時期にはの時期にはアセスメントと担当者会議を開催し本人及び家族と話しあいを設けていた。現在は自粛している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の行動や心理変化を毎日申し送り、月2回のカンファレンスの際にモニタリングを行って情報を共有し、見直し、反映、実践へとつなげ、ケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人のパウロ病院の送迎バスを利用して、行事、外出ををしていた。各ボランティアさんの協力(利用)により行事や色々なアクティビティの提供、また個別に外部サービスを利用しての外出を行っていたがコロナ禍の為今年は出来ていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の体操教室、ボランティアによる傾聴、歌、小学校との交流等積極的に行っていたが、コロナ禍の為今年は出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に、ご家族の意向を確認してかかりつけ医を継続できるように支援している。ご家族がご本人と受診する際は、ご本人の状況を書面で渡し適切な医療を受けられるように配慮している。受診後は、個別に結果を記載し情報の共有を行っている。		

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいた事、相談したいことを週1回の訪問看護師に見て頂き適切な指示を頂いている。状況に応じ夜間もアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、それまでの介護に関する情報を書面にて提供している。退院までは何度か訪問し状況の確認、退院前には本人の状態を書面で頂き退院後に注意しなければならない点を話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時、契約者に医療連携体制の説明と重度化した時の事業所が対応できることを説明している。終末期の対応についても早い段階からご自身やご家族と話題にし事業所にできることを十分に説明しながら方針を共有している。現在は殆どがパウロ病院への入院(長期療養)を希望され、自宅での見取りの希望もある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は定期的に市民救命講習に参加し実技により蘇生術、救急手当の研修を職員全員が受けている。入居者の急変、事故発生時の連絡網も作成しており模擬訓練も行っている。AEDを設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は、消防の指導の下に避難訓練を行っていたがコロナ禍の為自主訓練を行っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で入居者の話をする場合には、居室の番号を利用するなど入居者及びホーム外の方に分からない様に配慮を行い、個々の人格を把握し個別に応じた対応でその方を尊重した声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんの表情、仕草、言葉から思いを読み取り、安心して話せる雰囲気を作り、個々に応じて選択肢を増減してご自分で決められるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さん一人ひとりのペースや体調を考慮し、出来ることをできる範囲で取り組んでもらっている。ケアプランにも反映して統一したケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切にし、髪型、おしゃれに合わせ、朝の更衣時や入浴時の着替えなどは出来る限り本人に選んで頂き、可能な方にはご自分で静養して頂けるように支援をしている。		

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に食べたい物を伺いメニューに取り入れている。近所で食材を購入し、フロアから見えるところで調子をしているので包丁の音やみそ汁、調理の音や味噌汁、調理のにおい、調理や味見を五感で感じてもらい、職員も一緒に食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスに配慮したメニュー作成を心掛け、時間ごとの水分摂取を促し、個々の水分量と食事量を記録している。申し送りで情報の共有を図り支援につないでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促し、自身でできる方には見守り、支援が必要な方には一部介助等自分では難しい方でも入れ歯を磨いてもらう様声掛けを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをし個々の排泄のパターンの把握に努めている。定期的に声掛けが必要な人にはトイレで排泄ができるように支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	申し送り等で排便の確認を常に行っている水分をしっかりと摂って頂くために、飲料水も工夫し提供している。便秘がちな方には、ケアプランにて個別に運動に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別入浴にて対応し、本人のタイミングに合わせて入浴して頂いている。入浴を嫌がる方でも楽しく入浴されるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握し、良質な睡眠を確保するよう努め、疲労の程度に応じて休息を促し、心身を休める様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬している薬を一括でファイルし、服薬のセット、服薬前、服薬時、服薬後(空薬包)で確認を行っている。血圧や血糖薬等特に留意する物について周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に出来る事を続けられるように支援を行い、役割を持ち感謝を伝えることにより、喜びを感じてもらっている。パズル等も行い達成感を感じられるように支援している。		

グループホーム冬桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、外出行事等積極的に行っていたが、コロナ禍の為出来ていない。換気やベランダに出て外気浴を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族にも確認しながら、希望の物があれば職員が購入しお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもゆっくりお話しできるように支援している。コロナ禍の為タブレットを使用したTV電話を設置している手紙についてはご自身の希望に沿って行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には季節を取り入れた壁面装飾や花を飾っている。食事の時には心地よいBGMを流している。リビングと廊下は暖色灯、間接照明は白色灯にしている。まどからの景色も四季が感じられる庭があり落ち着けるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が2か所あり、共にテーブルとイスのセットの他にソファを設け自由な時間を過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご本人とご家族と相談しながら導線に配慮しつつなじみの家具の配置を行い好みの置物や飾り、家族の写真等も用意して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々でできることをそれぞれにして頂き(床のモップかけ、洗濯干し、たたみ、食器洗い、片付け等)ご本人の体調に留意しながら行って頂いている。またトイレには表示し居室にはネームプレートを付けている。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム冬桜

作成日：令和 2年 12月 1日

市町村受理日：令和 2年 12月 10日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	23	計画の見直し時に、センター方式(B-3)シートに本人の趣味、嗜好、暮らしの習慣などの変化も具体的に記入し、現在の思いを把握して介護計画書1表に記載できるような工夫に期待したい。	変化があった場合B-3シートに書き込みを行い、介護計画書の第一表につながる様に工夫する。	変化があった場合には、カンファレンス又は担当者会議の際書面に記載し、介護計画書の第1表に反映出来るようにする。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。